

立命館宇治中学校・高等学校

世界を体感した夏

～IBDP 生徒、海外国際会議に参加～

IB 教育部長 Matthew Thomas

2010 年 4 月、立命館宇治高等学校で国際バカロレアディプロマ・プログラムが正式にスタートしました。立命館宇治高等学校は 2009 年 8 月に正式認可を受け、関西地区の一条校では初めて、また日本国内の一条校では 3 番目の IB ワールドスクールとなりました。現在、本校では高校 2 年生から国際バカロレアディプロマ・プログラムを選択することができ、本校初の国際バカロレアディプロマ・プログラム履修生たちは 2010 年、2011 年の学習を経て、2011 年 11 月のディプロマ試験へと備えます。

IBDP の目標の一つに、「地球を守るという共通の意識を持ち、より良い平和な世界を作ろうとする、国際的感覚をもった人材を育成する」(IB Learner Profile)とあります。「より良い平和な世界を作る」ことは海外に行き活動するだけではなく、自分たちの身近な地域で、小さな社会奉仕活動から始めることになると思います。その目標を達成するために、CAS 活動(創造性、活動、奉仕)があります。

今年の夏、立命館宇治高等学校ではグローバルチャレンジプログラム(以下 GCP)の一環として、IBDP(国際バカロレアディプロマプログラム、以下 IBDP)履修生を様々な国際学生会議に送りました。本校では、生徒が国際学生会議に参加することで他国の若者たちと触れ合い、国際社会に貢献する手段を探る機会を与えることを目指しています。

IBDP 認定校として、立命館宇治高等学校の生徒は、プログラムが始まって以来、様々な CAS 活動に参加しています。その活動には、スポーツ、学校外での語学教室、楽器演奏、学校行事の司会、学校新聞、土曜日の子供英語教室 Rits Kids の手伝い、そして、GCP があります。

今回、IBDP 履修生たちは CAS(創造性・活動・奉仕)活動として様々な GCP に参加しました。CAS とは創造性(Creativity)、活動(Action)、奉仕(Service)という 3 つの分野における活動の頭文字をとったもので、CAS は IB ディプロマプログラムの特徴ともいえる活動です。生徒たちは CAS 活動を通じて、新たな挑戦に取り組み、様々な場面において計画し実行する、そして活動を振り返るという習慣を身につけます。また、CAS は IB の教育理念でもある「活動の中で

貢献する意義を見出し、バランスのとれた、思いやりのある地球人を育成する」という考えを反映しています。IB では、CAS 活動を行なうことで生徒たちが広い視野を持ち、常に学ぶ姿勢を失わず、探究心や自立心を持続けることができるよう促しています。

2010 年、立命館宇治高等学校の IBDP 履修生たちは、国際学生リーダーシップ会議(香港)、国際環境保全学生会議(インドネシア)、国際バカロレア学生会議(アメリカ)、日中青年会議(香港)に出席しました。立命館宇治高等学校 IB 教育部では GCP を定期的に行なうことで、今後も生徒たちが CAS 活動の一環としてこれらの国際学生会議に参加し、本校における CAS 活動を活発なものに、そして充実したものにしていくよう指導していきます。



高等学校 2 年から開始する CAS 活動の一環として行われている AIP (IBDP 予備コース) 生徒のための Pre-CAS 土曜講座。発声練習から演劇指導まで本格的な演技講座を月 2 ～ 3 回行っている。写真は、大阪の稽古場、シアトリカル應典院にて 6 名の AIP 生徒、引率教員、特別講師と。

「信頼・平和・交流について考えるきっかけとなった。」

仁賀奈真耶 (IBDP 1 年生)

2010 年日中青年会議(香港)参加

私は 8 月に香港で行なわれた日中青年会議に参加しました。この会議で私は、様々なことを学んだだけでなく、アジア地区の学生と交流を持つこともできました。今回の会議ではセミナーやセッションが行なわれただけでなく、異文化交流も行なわれ、中でも中国の村々を助ける活動を行なっている「ジョイ・イン・アクション (JIA)」というボランティアグループの原田さんという方が話されたお話がとても印象に残っています。今回